

神戸市立山田中学校 学校評価報告書

校 園 長 名 井 上 健 剛

記 入 者 名 江 里 口 徹

神戸の教育が目指す人間像	教育ビジョン	神戸が目指す これからの学校の姿
心豊かに たくましく生きる人間	自他を大切に 自ら考え 未来をつくる	人がつながり とともに創る みんなの学校

学校づくりの目標	生徒が通いたい学校…安心・安全を守る ・なんでも相談できる教職員がいる学校（話を傾聴し思いに寄り添った教育活動） ・教室に居場所を感じられる学校（認め、認められる経験から人を大切にしたいと思える場） 保護者・地域が通わせたい学校…寄り添う ・連絡、相談、報告が徹底している学校（いじめ問題対策委員会の毎週開催、職員室での声かけ） ・地域の行事や連絡会等に積極的に参加し、地域の方が訪れたくなる親しみやすい学校 教職員が働きたい学校…信じあえる ・寄り添いの方針のもと、方法は違って同じ目的に向かって進んでいく学校（得意をいかす） ・授業力の向上に努める学校（自由な授業見学、遠慮のない意見交換、切磋琢磨、OJT） ・授業がわかる学校（ICTの活用、個に応じた支援、デジタルドリルによる放課後学習） ・個性が尊重される学校（個々の違いが理解され、すべての生徒が大事にされる場） ・コミュニティスクールとして、率直な意見交換ができ、子どもが生き生きと活動している学校 ・施設、設備面の安全点検、確認が常日頃行われている学校 ・生徒のために力を合わせ、生徒の一瞬の輝きに皆で喜びややりがいを感じられる学校
----------	--

内容		重点的な取組み	評点 （４段階）	特記事項 （学校自己評価）	関係者評価 （学校自己評価に対する学校運営協議会の意見等）	学校自己評価、関係者評価を踏まえた 次年度の重点的な取組みの案
育てたい子どもの姿	◎集団の中で自分を高めよう ◎何をどうするのかを自分で考え、主体的に行動しよう（自立） ◎自分がやると決めたことはやりきろう「したくても してはいけないことは しない したくなくても しなければならないことは する」（自律） ◎みんながより過ごしやすい生活をするために考えを伝えあい、納得解を見出そう（自治）					
	豊かな心をもち、支え合い励まし合う生徒	学校行事	3	熱中症対策として、体育会と文化祭の時期を入れ替えて実施。平日開催としたが、多数の保護者に来校していた。生徒の取組の良さについて高い評価をいただいた。	天候不順、温暖化等配慮すべき事柄は多いが、生徒の健康第一で柔軟に対応していただいて素晴らしいです。	体育会、文化祭とも10月実施を検討。生徒の負担軽減と保護者来校機会を考え、オープンスクールを平日、文化祭を土曜開催で検討。
	自他の命や思いを大切にし、危機に面した時にSOSが出せる生徒	教育相談	3	調査前にカウンセリング週間を設け、担任による生徒状況の把握と指導に努め、重要度の高いものについては迅速な情報共有に努めた。必要に応じて、関係機関との情報共有もおこなった。	生徒の置かれている実態を十分理解し、指導し、さらなる信頼関係を構築してください。いつでもSOSが出せる環境づくりが大切です。	日常の些細な声掛けを増やし、信頼関係構築のきっかけにする。参加型学習により自他尊重の心を育み、安心して話ができる環境をつくる。
	自ら学び、課題を設定し、探究する生徒	ICTの活用、調査前の自習教室	3	定期調査前の学習会（自習教室）を全学年で取り組んだ。学習指導員を活用した学力補充も効果的であった。デジタルドリルの効果的活用が課題である。	生徒の自主性や探究心の醸成に取り組み、指導を続けていけば、効果的活用につながり、結果的に教員の負担も減ると思われます。	主体的で対話的な授業に取り組み、ICTを個別最適学習や協働的学習でうまく活用したい。デジタルドリル活用を積極的に促していく。
必須テーマ	①いじめ防止対策に関する取組み	いじめ防止基本方針に基づいた取り組みをHRや道徳科の時間だけでなくすべての教育活動において実践	3	年3回のいじめアンケートやカウンセリングなどでいじめ事案を把握し、すべての教育活動全体で指導に努めた。また、定期的に開催するいじめ問題対策委員会で指導の経過の確認を行った。また、週1回の生徒指導連絡会を開いて、生徒情報を共有している。	いじめられる側のフォローも大切だが、いじめる側の指導が重要。生徒情報共有などで、いじめの本質について、認識を深めることがいじめの抑制につながる。人命を脅かす犯罪にならないように。	道徳科の授業をはじめ、すべての生活場面でいじめに向かわない指導を徹底する。参加型学習により自他尊重の心を育む。
	②不登校支援の取組み	サポートルーム開設、欠席時の対応	3	支援員が見つかったため、サポートルームが教室に入りづらい生徒にとって安心して過ごせる場として機能させることができた。	不登校を、特別な形ではなく、教育の一つの形ととらえたい。ただ、なぜ不登校かを、生徒個人の立場にたって、考え、支援を続けてほしい。	担任や学年、校内サポートルームによる支援の継続のほか、状況を考えて心理の専門家による支援や関係機関による支援等も活用していく。
	③教職員の業務改善	超過勤務が多い教員との個別面談を行い、業務改善のために必要な取り組みについて確認	3	遅くまで働かなければならない原因を確認したことで少しずつ改善が進んだ。	持ち帰り仕事が増えないように配慮してください。教育界には、今の時代に合った教育ができる若い先生が必要とされていると思います。	単純に仕事の項目数にとらわれず、苦手分野、得意分野を考慮して業務を手分けすることも考える。
	④保護者・地域への情報提供・発信（すぐる活用、ホームページ等）	迅速、簡潔、明瞭な情報発信	3	リアルタイムで必要な情報発信を行うよう努めた。また保護者アンケートもすぐるでおこなった。HPは学校行事や学年行事などの様子をこまめに更新し、学校の様子が見えるように工夫した。	すぐるとHPを連動させたり、ペーパーレス等に柔軟に対応してください。どれだけ目を通していただいているか検証も必要です。	検討の結果、ペーパー発出するものが多かったが、原則、すぐる発出とする。情報提供ツールとして、さらにすぐるを活用する。

【評点】 4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：どちらかと言えば課題がある 1：課題がある